

目 次
「臨床薬理」 第 44 巻 第 4 号 2013 年 7 月

第 34 回日本臨床薬理学会学術総会予告 (4) 117E

原著

- Lack of Pharmacokinetic Interaction between Pilsicainide and
Rifampicin in Healthy Volunteers Tsuyoshi SHIGA, et al...301
- 日本人健康成人男性におけるナルトレキソン併用下の
フェンタニル 3 日用テープ貼付時の安全性および
薬物動態に関する同等性試験..... 嶋田 顕ほか...307
- 医療用医薬品添付文書における「腎機能」に関する
記載内容についての検討..... 神田 藍ほか...313

症例報告

- ナラティブアプローチを用いたがん化学療法におけるプラセボ対照
二重盲検試験に参加した 4 名の患者心理に関する症例報告..... 藤谷 貴子ほか...319

第 33 回 日本臨床薬理学会学術総会特集・記録

- 目次..... 323
- 特集「治験のあとが大切 製造販売後の薬剤の有効性と安全性をどう評価するか?」..... 325
- 記録 シンポジウム 5 医療現場で有用な市販後情報の提供と利用..... 339
- シンポジウム 11 病態時の薬物動態試験について..... 349
- シンポジウム 19 薬学的管理が必要な個別化医療..... 359
- シンポジウム 20 我が国の早期臨床試験が国際的に認められるために..... 367

REPORT

- 2010 年度日本臨床薬理学会海外研修員報告書—その 4—..... 櫻庭 篤.....379
- 2012 年度日本臨床薬理学会海外研修員報告書—その 1—..... 山出美穂子.....383
- 2012 年度日本臨床薬理学会 CRC 海外研修報告書..... 木俣美津夫ほか...385

医薬品情報

- 医薬品・医療機器等安全性情報 No. 301, 302 121E

投稿規定..... 125E

おしらせ

- 訂正 認定薬剤師認定・指導薬剤師委嘱の更新者リスト (修正版掲載) 127E
- 臨床薬理専門医更新手続き, 認定薬剤師更新手続き..... 128E
- 講演発表時における COI 開示に関する重要なお知らせ 他..... 130E
- 臨床薬理研究振興財団研究奨励金交付募集案内..... 133E

第33回 日本臨床薬理学会学術総会特集・記録 目次

特集

「治験のあとが大切 製造販売後の薬剤の有効性と安全性をどう評価するか？」

1. 薬剤性有害事象の臨床疫学……………森本 剛…325
2. 冠動脈血行再建後のレジストリーにおける薬剤の有効性・安全性の評価……………夏秋 政浩ほか…329
3. 製造販売後における循環器官用剤の安全性および有効性評価……………佐藤 玲子…334
4. 患者レジストリに基づいた治療法の効果比較研究 (Comparative Effectiveness Research)……………植田 真一郎…335

記録

シンポジウム 5：医療現場で有用な市販後情報の提供と利用……………(座長) 野元正弘, 松田 勉

- 座長のまとめ……………野元 正弘ほか…339
1. 医薬品リスク管理計画について……………渡邊 伸一…341
 2. 医療現場で有用な市販後情報の提供と利用 —内科医の立場から—……………望月 秀樹…343
 3. 市販後情報提供の問題点 ～主として添付文書について～……………荒木 博陽…345
 4. 医療現場で有用な市販後情報の収集と提供……………甲斐 靖彦ほか…347

シンポジウム 11：病態時の薬物動態試験について……………(座長) 松本直樹, 丸山由起子

- 座長のまとめ……………丸山由起子ほか…349
1. 大学病院における病態時薬物動態試験の実施体制……………山下梨沙子ほか…351
 2. 病態時の薬物動態試験実施における問題点と課題 —医療機関からの提言—……………原田 和博…353
 3. Phase I 専門施設における患者 PK/PD 試験……………内丸比奈子ほか…355
 4. 病態時の PK/PD 試験を推進するために日本の医療機関に求めること……………松井 伸吾…357

シンポジウム 19：薬学的管理が必要な個別化医療……………(座長) 松原和夫, 宇野 司

1. 個別化医療の処方設計……………伊東 弘樹…359
2. 個別化薬物治療における遺伝子解析および TDM の応用……………中村 智徳ほか…361
3. 副作用モニタリング……………中村 敏明ほか…363
4. 現場から臨床薬理学に望むこと……………橋田 亨…365

シンポジウム 20：我が国の早期臨床試験が国際的に認められるために……………(座長) 梅村和夫, 中野真子

- 座長のまとめ……………中野 真子ほか…367
1. FIH 試験：グローバル同時開発に対応するには……………梅村 和夫…369
 2. POC 試験：後期臨床試験を成功させるために……………野元 正弘…371
 3. 患者 Phase 1 試験：実施の課題……………白源 正成ほか…373
 4. 抗がん剤の FIH (First-in-Human) 試験：国際競争力を示すには？……………藤原 康弘…375
 5. 早期臨床試験の推進：厚生労働省の立場から……………山田 雅信…377